

わたしたちの社会と法

〔担 当 者〕 浅沼 友恵
 〔開 講 期〕 2 期
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 150Z0-1234-o2

●本授業の概要：

生まれてから死ぬまで、わたしたちが関わる（あるいは、関わるかも知れない）さまざまな法制度を分かりやすく解説する。法学の基礎、裁判員制度に関わる基礎知識も学ぶ。

●到達目標：

好みや感情によってではなく、客観公平な目で正義を見きわめる力（legal mind という）を養う。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度：30点
 定期試験：70点

●留意事項：

六法辞書について、授業では『デイリー六法』を使用するが他にすでに持っていれば、それを使用してもかまわない。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- I イン트로ダクション
 - 第1回 法とは何か・国法の体系
 - 第2回 裁判の仕組み・裁判関連の職業
- II 刑法と裁判員制度
 - 第3回 刑法の基本理念・犯罪の成立
 - 第4回 刑罰の種類
 - 第5回 刑法の及ぶ範囲
 - 第6回 裁判員制度・裁判員の守秘義務
- III 人の誕生
 - 第7回 “人”とは何か
 - 第8回 嫡出・親権・後見について
 - 第9回 未成年者と法
 - 第10回 少年法と現代社会
 - 第11回 子供の人権条約について
- IV 家族と法
 - 第12回 婚姻の効力
 - 第13回 夫婦別氏制度
 - 第14回 夫婦の財産関係
 - 第15回 離婚の効力
- V 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

予習はテキストの次のテーマの部分に目を通すことを希望します。授業中はノートの取り方に工夫をしてください。特に説明なども書き加え復習しやすいノートの作成を希望します。試験前にまとめて復習しようとする多岐にわたる内容を網羅することが難しいため、その都度配布されたプリントやノートの内容を見直し定着をはかるように努めてください。また、日常生活の中でニュースや新聞、ネットなど関連する記事に注目してください。

【必携書（教科書販売）】

『デイリー六法』、三省堂
 『現代法学入門』（有斐閣双書）、伊藤正巳 加藤一郎、有斐閣

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

わたしたちの社会と政治 [a]

〔担 当 者〕 小田川 大典
 〔開 講 期〕 1 期
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 150Z0-1234-o2

●本授業の概要：

映像資料を用いながら、政治学（国際政治を含む）の重要なトピックについて概説する。

●到達目標：

政治学についての基本的な知識を身につけるとともに、現代政治の諸問題について批判的に考察する能力と、自分の意見を組み立てる能力を涵養すること。

●成績評価の基準：

レポート課題：30%
 期末テスト：70%

●留意事項：

・オーウェル『動物農場』についてのレポート（600字程度）を課す。
 ・講義についての情報を下記の twitter で公開する。
<http://twitter.com/odg700/>

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. イン트로ダクションー政治の学び方
2. 政治家とはどのような存在か（一）（DVD 鑑賞）
3. 政治家とはどのような存在か（二）（DVD 鑑賞）
4. デモクラシーの政治学
5. デモクラシーと熟議（一）（DVD 鑑賞）
6. デモクラシーと熟議（二）（DVD 鑑賞）
7. メディアの政治学
8. ジャーナリズムと政治（一）（DVD 鑑賞）
9. ジャーナリズムと政治（二）（DVD 鑑賞）
10. 国際政治学入門
11. 外交と危機管理（一）（DVD 鑑賞）
12. 外交と危機管理（二）（DVD 鑑賞）
13. 政治哲学入門（一）（DVD 鑑賞）
14. 政治哲学入門（二）（DVD 鑑賞）
15. レポート課題解説
16. 期末テスト

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では毎回論述形式のミニ・レポートを課します。問題は事前に提示するので、予習段階ではその問題を見て、自分なりの答案を考えてください。

（復習）この授業では毎回、授業内容に関連する復習問題を提示し、期末テストの試験範囲に含めます。復習段階では講義内容を思い出しながら、自分なりの答案を考えてください。

【必携書（教科書販売）】

『動物農場：おとぎばなし』、ジョージ・オーウェル、岩波文庫

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

わたしたちの社会と政治 [b]

〔担 当 者〕小田川 大典
〔開 講 期〕2 期
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕150Z0-1234-o2

●本授業の概要：

映像資料を用いながら、政治学（国際政治を含む）の重要なトピックについて概説する。

●到達目標：

政治学についての基本的な知識を身につけるとともに、現代政治の諸問題について批判的に考察する能力と、自分の意見を組み立てる能力を涵養すること。

●成績評価の基準：

レポート課題：30%
期末テスト：70%

●留意事項：

- ・オーウェル『動物農場』についてのレポート（600字程度）を課す。
- ・講義についての情報を下記の twitter で公開する。

<http://twitter.com/odg700/>

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. イントロダクションー政治の学び方
2. 政治家とはどのような存在か（一）（DVD 鑑賞）
3. 政治家とはどのような存在か（二）（DVD 鑑賞）
4. デモクラシーの政治学
5. デモクラシーと熟議（一）（DVD 鑑賞）
6. デモクラシーと熟議（二）（DVD 鑑賞）
7. メディアの政治学
8. ジャーナリズムと政治（一）（DVD 鑑賞）
9. ジャーナリズムと政治（二）（DVD 鑑賞）
10. 国際政治学入門
11. 外交と危機管理（一）（DVD 鑑賞）
12. 外交と危機管理（二）（DVD 鑑賞）
13. 政治哲学入門（一）（DVD 鑑賞）
14. 政治哲学入門（二）（DVD 鑑賞）
15. レポート課題解説
16. 期末テスト

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では毎回論述形式のミニ・レポートを課します。問題は事前に提示するので、予習段階ではその問題を見て、自分なりの答案を考えてください。

（復習）この授業では毎回、授業内容に関連する復習問題を提示し、期末テストの試験範囲に含めます。復習段階では講義内容を思い出しながら、自分なりの答案を考えてください。

【必携書（教科書販売）】

『動物農場：おとぎばなし』、ジョージ・オーウェル、岩波文庫

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

わたしたちの社会と経済 [a]

〔担 当 者〕山本 由美子
〔開 講 期〕1 期
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕150Z0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業は、日本経済を、経済学の考え方や経済情報をもとに読み解きます。主なテーマは、お金、物価、景気、経済成長、経済政策、為替、貿易、財政、雇用などです。経済時事問題も多く扱いますので、一般的な経済知識を身につけられ、就職活動や将来の仕事に向けた準備にもなります。過去の日本経済を事例に、なぜ経済はそう動いてきたのかを学んでいきます。またジェンダーの視点を通じて雇用や経済成長、社会保障制度を学ぶことで、今後女性が活躍できる社会制度や経済のしくみを考えていきます。事例学習を通じて応用力を身につけることで、社会・経済状況が理解できるようになります。

●到達目標：

1. 将来社会人になったときに必要となる日本経済の基礎知識を身につける。
2. テレビや新聞の経済ニュースを理解できるようになる。
3. 社会問題や経済の話題を自分の身の回りのこととして認識し分析することができる。

●成績評価の基準：

課題・レポート 40% (到達目標1, 2, 3)
中間確認試験 30% (到達目標1, 2)
期末試験 30% (到達目標1, 2, 3)

●留意事項：

質問は、講義終了後の教室か、またはメールでしてください。メールを送るときには、タイトルに「清心」と入れるとともに、本文に学科・学年・氏名を記入してください。メールアドレスは、yumikoyamamoto@okayama-u.ac.jp です。

●実務経験の授業への活用方法：

国際開発の分野でジェンダーと経済に関する政策スペシャリストとしてアジア地域事業に携わっていた経験から、経済学をジェンダーの視点でも分析し、また日本と他国の事例を比較検証していくことで、学生に「世界の中の日本」といった視点も持つように促す。

●授業予定一覧：

1. 講義の概要
2. 戦後日本の経済成長
3. 景気循環の姿とそのとらえ方
4. アンパイドワークと女性の雇用
5. 雇用の変動と日本型雇用慣行の行方
6. 産業構造の変化と日本型企業経営の行方
7. 物価の変動とデフレ問題
8. 貿易と国際収支の姿
9. 円レートの変動と日本経済
10. グローバル化の中の日本経済
11. 財政をめぐる諸問題
12. 経済の鍵を握る金融
13. 格差問題を考える
14. 少子高齢化と社会保障
15. 人口構造の変化と日本経済
16. 期末試験

授業は教科書の内容にそって進みますが、その他に時事問題をみます。時事問題を扱う関係上、状況によっては予定が大幅に変更になります。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）次週に予定されているテーマに関して教科書の該当部分を熟読し、質問等あればまとめておくこと。
（復習）教科書の内容の他に、授業で学んだことをまとめ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。
毎日、新聞を読み、特に社会・経済面のニュースに慣れ親しむこと。

【必携書（教科書販売）】

最新 | 日本経済入門、小峰 隆夫、村田 啓子、日本評論社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

『入門・日本経済』、浅子和美・篠原総一編、有斐閣、最新版

『女性と労働ー貧困を克服し男女ともに人間らしく豊かに生活するために』、日本弁護士連合会第58回人権擁護大会シンポジウム第1分科会実行委員会、旬報社

わたしたちの社会と経済 [b]

〔担 当 者〕 山本 由美子
 〔開 講 期〕 2 期
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 150Z0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業は、日本経済を、経済学の考え方や経済情報をもとに読み解きます。主なテーマは、お金、物価、景気、経済成長、経済政策、為替、貿易、財政、雇用などです。経済時事問題も多く扱いますので、一般的な経済知識を身につけられ、就職活動や将来の仕事に向けた準備にもなります。過去の日本経済を事例に、なぜ経済はそうのように動いてきたのかを学んでいきます。またジェンダーの視点を通じて雇用や経済成長、社会保障制度を学ぶことで、今後女性が活躍できる社会制度や経済のしくみを考えていきます。事例学習を通じて応用力を身につけることで、社会・経済状況が理解できるようになります。

●到達目標：

1. 将来社会人になったときに必要となる日本経済の基礎知識を身につける。
2. テレビや新聞の経済ニュースを理解できるようになる。
3. 社会問題や経済の話題を自分の身の回りのこととして認識し分析することができる。

●成績評価の基準：

課題・レポート 40% (到達目標1, 2, 3)
 中間確認試験 30% (到達目標1, 2)
 期末試験 30% (到達目標1, 2, 3)

●留意事項：

質問は、講義終了後の教室か、またはメールでしてください。メールを送るときには、タイトルに「清心」と入れるとともに、本文に学科・学年・氏名を記入してください。メールアドレスは、yumikoyamamoto@okayama-u.ac.jp です。

●実務経験の授業への活用方法：

国際開発の分野でジェンダーと経済に関する政策スペシャリストとしてアジア地域事業に携わっていた経験から、経済学をジェンダーの視点でも分析し、また日本と他国の事例を比較検証していくことで、学生に「世界の中の日本」といった視点も持つように促す。

●授業予定一覧：

1. 講義の概要
2. 戦後日本の経済成長
3. 景気循環の姿とそのとらえ方
4. アンパイドワークと女性の雇用
5. 雇用の変動と日本型雇用慣行の行方
6. 産業構造の変化と日本型企業経営の行方
7. 物価の変動とデフレ問題
8. 貿易と国際収支の姿
9. 円レートの変動と日本経済
10. グローバル化の中の日本経済
11. 財政をめぐる諸問題
12. 経済の鍵を握る金融
13. 格差問題を考える
14. 少子高齢化と社会保障
15. 人口構造の変化と日本経済
16. 期末試験

授業は教科書の内容にそって進みますが、その他に時事問題をみず。時事問題を扱う関係上、状況によっては予定が大幅に変更になります。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

(予習) 次週に予定されているテーマに関して教科書の該当部分を熟読し、質問等あればまとめておくこと。
 (復習) 教科書の内容の他に、授業で学んだことをまとめ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。
 毎日、新聞を読み、特に社会・経済面のニュースに慣れ親しむこと。

【必携書（教科書販売）】

最新 | 日本経済入門、小峰 隆夫、村田 啓子、日本評論社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

「入門・日本経済」、浅沼和美・篠原総一編、有斐閣、最新版

「女性と労働―貧困を克服し男女ともに人間らしく豊かに生活するために」、日本弁護士連合会第58回人権擁護大会シンポジウム第1分科会実行委員会、旬報社

わたしたちの社会とボランティア

〔担 当 者〕 荒木 秀治
 〔開 講 期〕 通年
 〔授 業 形 態〕 演習・講義 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 150Z0-1234-o2

●本授業の概要：

【大学とまちづくり】

大学の成り立ちや現代的な役割・機能、課題等を学んだ上で、NPO・市民コミュニティ財団等の非営利組織との連携・協働を中心とした社会との互恵性の構築を意識した大学・学生のまちづくりへの関わり方、自身のキャリアに形成について考えます。

講義では、岡山で実際にまちづくり活動を行っている NPO・市民コミュニティ財団関係者等の方とのインタラクティブな講義に加え、実際に NPO・市民コミュニティ財団等の活動へ参加します。受講生は、教員とともに、まちに出かけ、社会での現場体験を通じてまちづくりやキャリアについて学びます。

●到達目標：

社会における大学や NPO・市民コミュニティ財団等の非営利組織の役割を1弼羣し、大学のまちづくりへの関わり方や大学と地域(市民)の協働について、現代社会における大学の役割やサービスラーニングの考え方等について述べる事ができる。また、大学や大学生力 NPO や市民コミュニティ財団等の活動を通じて、地域にいかに関わる事ができるか、また自身のキャリア形成について自ら考え行動することができる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み姿勢 50%
 毎回講義のふり返りシート 20%
 レポート 30%

●留意事項：

適宜授業で指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

高等教育行政での企画・立案経験、NPO・財団法人での活動を基にした実践活動など、学生に各団体での実戦経験を経験させ、自身の卒業後のライフプラン、キャリア形成などについて考えさせる。

●授業予定一覧：

1. ガイダンス 大学の成り立ちと役割、課題とサービスラーニングの考え方
2. 自らのキャリアデザインと NPO のかたちについてかんがえる (だっぴ)
3. 市民コミュニティ財団についてかんがえる (NPO・市民コミュニティ財団)
4. 岡山のまちづくりの事例をみる 1 (制問タブラ・ラサ品有機生活マーケットいち)
5. 岡山のまちづくりの事例をみる 2 (満月 BAR)
6. 岡山のまちづくりの事例をみる 3 (チャリティ・サンタ)
7. 実践活動 (西川のまちづくりの歴史を学ぶ)
8. 実践活動 (だっぴ or 公益財団法人みんなでつくる財団おかやま)
9. 実践活動 (だっぴ or 公益財団法人みんなでつくる財団おかやま)
10. 実践活動報告
11. 実践活動 (満月 BAR or 有機生活マーケットいち)
12. 実践活動報告
13. リフレクション & 実践活動 (助成制度設計や協働についての検討)
14. リフレクション & 実践活動 (助成制度設計や協働についての検討)
15. オープンハウス

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

適宜授業で指示する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

人材育成論

〔担 当 者〕西井 麻美 他 2 名
〔開 講 期〕1 期
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕150Z0-1234-o2

●本授業の概要：

持続可能な社会に向けたキャリアデザインや主権者としての在り方について考える一助となる大学－地域－企業－行政の三者連携の生涯学習や ESD（持続可能な開発のための教育）本大学のある岡山市北区京山地区における学社連携の生涯学習や SDGs（持続可能な開発目標）に関する活動などを教材に、どんな社会人を目指せばよいかを探っていく。持続可能な社会づくり・人づくりを担える人材（ESD コーディネーター）育成のオリジナルプログラムを通して、人材育成の考え方や手法を身につけてもらう。また、ライフスキルとライフワークバランスの学習を通して、女性の社会進出に必要な資質能力開発や力量形成について自ら探求していくように奨励する。アクティブ・ラーニングの要素については、①問題解決型学習、②ディスカッション、③プレゼンテーション、④実習・フィールドワーク、を取り入れる。なお、この授業は、複数教員（西井麻美、池田満之、富岡美佳）で担当する。

●到達目標：

1. 人材育成の考え方や手法を身につけて実践・応用できる。
2. ESD・SDGs の基本的な説明ができ、ESD を実践できる。
3. ESD コーディネーターの基礎を習得して応用できる。
4. 京山 ESD フェロー（ESD 推進員）の認定者（認定証授与者）になれる。
5. ライフスキル教育の理論と実践をもとに持続可能な未来を担う人材育成について説明することができる。
6. 持続可能な社会について主権者としての基礎的判断ができる。

●成績評価の基準：

授業レポート 50%（到達目標1, 2, 3, 4）
授業の中で使用するワークシート・課題レポート 30%（到達目標1, 2, 3, 4, 5, 6）
授業への参加態度 20%（到達目標1, 2, 3, 4, 5, 6）
の割合で、総合的に評価する。

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育」推進会議（ESD-J）が受託実施している ESD コーディネーター研修業務等の実務担当としての経験、ならびに、岡山ユネスコ協会の ESD 等担当理事として、ESD 関連事業を担当した経験、さらに、岡山市京山地区 ESD 推進協議会の ESD・人材育成関係の主担当として地域の環境てんげん活動や ESD 検定を含む ESD 研修を行っている経験を、本授業科目の随所に活かして実践型のカリキュラムを組み立てている。
大学生は知識も実務経験も乏しく、人材育成の理論を話しただけでは習得が厳しい。このため、実際の現場（学校や地域や職場など）で行ってきた人材育成に関する実践プログラムを授業の中で実体験できるように組み入れていくことで、人材育成の理論的なことも理解でき、腑に落ち、習得できるようにしている。
さらに助産師としての臨床経験を活かして、学校現場でライフスキル教育を実践してきたことから学生に生きる力をはぐくむための実践活動について伝える

●授業予定一覧：

1. ESD 検定に学ぶ
 2. 地元学：京山地区の「見える化」に学ぶ
 3. 私たちは何ができるのか：京山 ESD 活動に学ぶ
 4. 自分たちのまちの理想像
 5. 清心版「ESD・SDGs かるた」に学ぶ
 6. 本大学に視点をあてた ESD の学び
 7. ESD 学び合いワークと ESD フェロー認定
 8. 人材育成（ESD コーディネーター養成）のポイント
 9. 持続可能な未来をつくるライフスキル：ライフサイクルから見た課題
 10. ライフスキル教育の可能性
 11. 参加と当事者性を創る教育手法
 12. ライフスキル教育の実践プログラム
 13. 持続可能な社会に求められる人材
 14. 持続可能な社会の主権者を目指して：社会に参画する
 15. 持続可能な社会の主権者を目指して：自ら考え、自ら判断する姿勢
- 定期試験（課題レポート）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

参加型学習を取り入れるため、授業外学習として事前準備や振り返りを各自で行うことが必要である。課題として出されるものもあるので、十分な授業外学習を行いながら取り組んで貰いたい。

【必携書（教科書販売）】

持続可能な開発のための教育（ESD）の理論と実践 西井麻美・藤倉まなみ・大江ひろ子・西井寿里編著、ミネルヴァ書房

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>
授業中に適宜紹介する

世界の中のわたしたち [a]

〔担 当 者〕小笠原 ヒロ子
〔開 講 期〕1 期
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕150Z0-1234-o2

●本授業の概要：

授業に積極的に参加することで、世界並びに自分自身に関する理解を深め、どのように自分が世界に、地域に関わって生きていくのかを学ぶ。また成果物として岡山発のメッセージを作っていく。知識の習得だけではなく、習得の過程、習得したものをどのように生かしていくかを学ぶ。

●到達目標：

自ら学習し、学習したものを自分の言葉で考え、発表できる能力を向上する。聞く人を説得し、共感をしてもらえる心、技術を体得する。

●成績評価の基準：

授業中の積極的態度：30%、
発表の内容：40%
最終のレポート：30%

●留意事項：

内容に応じて、集中的に授業を行うことがあります。詳細については、教務係掲示板で確認すること。
自分の周りの出来事、世界の情勢にアンテナを上げて、情報に接し、意識を高める

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 自己紹介、岡山の紹介
2. 岡山についてもっと学ぶ
3. 日本政府の政策
4. ヨーロッパ連合
5. ドイツの環境への取り組み
6. 日本の森林の現状
7. 中国の経済発展
8. アメリカ、トランプ大統領
9. イギリス EU 離脱
10. ロシア
11. マララ、女性の問題
12. AMDA 社会開発機構から開発途上国の状況を学ぶ
13. 「置かれた場所で咲きなさい」
14. インドネシア
15. 岡山発プロジェクト発表
16. 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で発表者が決まっているので、発表者は担当部分をしっかり準備してくる。発表者以外にも、単に人の発表を聞くという受け身の態度ではなく、その内容に関して、質問、討議ができるよう積極的に予習を行ってくる。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

世界の中のわたしたち [b]

[担 当 者] 小笠原 ヒロ子

[開 講 期] 2 期

[授 業 形 態] 演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 150Z0-1234-o2

●本授業の概要：

授業に積極的に参加することで、世界並びに自分自身に関する理解を深め、どのように自分が世界に、地域に関わって生きていくのかを学ぶ。また成果物として岡山発のメッセージを作っていく。知識の習得だけでなく、習得の過程、習得したものをどのように生かしていくかを学ぶ。

●到達目標：

自ら学習し、学習したものを自分の言葉で考え、発表できる能力を向上する。聞く人を説得し、共感をしてもらえる心、技術を体得する。

●成績評価の基準：

授業中の積極的態度：30%、

発表の内容：40%

最終のレポート：30%

●留意事項：

内容に応じて、集中的に授業を行うことがある。詳細については、教務係掲示板で確認すること。

自分の周りの出来事、世界の情勢にアンテナを上げて、情報に接し、意識を高める

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 自己紹介、岡山の紹介
2. 岡山についてもっと学ぶ
3. 日本政府の政策
4. ヨーロッパ連合
5. ドイツの環境への取り組み
6. 日本の森林の現状
7. 中国の経済発展
8. アメリカ、トランプ大統領
9. イギリス EU 離脱
10. ロシア
11. マララ、女性問題
12. AMDA 社会開発機構から開発途上国の状況を学ぶ
13. 「置かれた場所で咲きなさい」
14. インドネシア
15. 岡山発プロジェクト発表
16. 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で発表者が決まっているので、発表者は担当部分をしっかり準備してくる。発表者以外も、単に人の発表を聞くという受け身の態度ではなく、その内容に関して、質問、討議ができるよう積極的に予習を行ってくる。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

ボランティア実践Ⅲ

〔担 当 者〕須沢 かおり
〔開 講 期〕1 期
〔授 業 形 態〕講義・実習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160A0-1234-o2

●本授業の概要：

生と死に関わる問題について取り組む機会として、病者のケア、介助など、病院におけるボランティアを実践します。ボランティアの内容は、病院での入院患者の補助、院内図書室、外来受付の案内、院内でのイベント、病院フェスタの手伝い、緩和ケア病棟（ホスピス）での支援などです。
女性が家庭や社会で、子育て、介護、病人のケアなどにあたるための実践を学びます。
病院でのボランティアの実践を通して「苦しみ」「病」「死」に向き合うことの意味を探り、人生の終わりの選択肢について、病院ボランティアを通して考えます。

●到達目標：

病院でのボランティアを通して、病者、障害者、死と向き合う人々のケアを実践します。社会における高度医療社会、高齢化社会を支える担い手を育成します。人生の終末期をどのように過ごすか、また本人、家族にとって最期を迎えるために何が大切な、考える機会をもちます。また「苦しみ」「病」「愛」「死」についてのキリスト教的な考え方を学び、病院でのボランティア活動を通して、人間として生きることの意味と深みを見つめ、体験します。

●成績評価の基準：

リアクション・ペーパー 20％
レポート 20％
病院でのボランティア活動 60％

●留意事項：

4月10日（水）14：45より、本授業の説明会を開催します。詳細は教務係の掲示板をご覧ください。説明会に参加しない方は、本授業を受講できませんので、注意してください。

自分の都合の良い時間を選び、平日の午前9時から4時の間に国立病院機構岡山医療センターでボランティアをします。病院では医療の現場を視察し、病人へのケアについて学び、病院内でさまざまなボランティア活動を行います。
希望者は緩和ケア病棟でのボランティアもできます。

病院でのボランティアをするために、病者への理解、優しさ、ケアの心が大切です。

受け入れ先の都合上、受講者数を30名に限定します。前期、後期を通して受講できる方を優先して受け入れます。

オフィスアワー 授業中に指示します。

●実務経験の授業への活用方法：

病院でのボランティアを実践するために、医療関係者による講義、指導を受けます。
国立病院機構岡山医療センター、副看護部長の吉田三紀看護師を中心とする各診療科の看護師、医療スタッフ、介護士による実践的な指導を受け、ボランティアを行います。

病院での終末期の医療、緩和ケア、臨床倫理について学ぶために、10年間、医学部・病院において医師や看護師を対象とする倫理教育や倫理コンサルテーション業務に従事している田代志門氏（国立がん研究センター）を特別講師として招聘し、講義を受けます。

なお、本授業を担当している須沢かおりは、インド、エチオピア、タンザニア、タイ、フィリピンでのボランティアの経験があるばかりでなく、フランスのルルドに本部のある傷病者のための国際ボランティア組織、Hospitalité Notre-Dame de Lourdesの正会員として、十数年来ルルドで傷病者のための国際ボランティア活動に従事しています。この経験を生かし、日本において病者のケア、支援のありかたと実践を教授します。

●授業予定一覧：

1. ボランティア活動に入る前のオリエンテーション（1）
2. ボランティア活動に入る前のオリエンテーション（2）
3. 国立病院医療センターでの医療スタッフによるオリエンテーション（1）
4. 国立病院医療センターでの医療スタッフによるオリエンテーション（2）
5. 国立病院医療センターでのボランティア実践（1）
6. 国立病院医療センターでのボランティア実践（2）
7. 国立病院医療センターでのボランティア実践（3）
8. 国立病院医療センターでのボランティア実践（4）
9. 終末医療、臨床倫理について（国立がん研究センター、田代志門）
- 10-15 国立病院医療センターでのボランティア実践（5）ー（10）
16. 期末試験（レポート）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

病院でのボランティアにそなえ、病者の心に寄り添えるよう、精神的な準備をする。
毎回ボランティアをした後に、レポートを提出する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

ボランティア実践Ⅳ

〔担 当 者〕須沢 かおり
〔開 講 期〕2 期
〔授 業 形 態〕講義・実習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160A0-1234-o2

●本授業の概要：

生と死に関わる問題について取り組む機会として、病者のケア、介助など、病院におけるボランティアを実践します。ボランティアの内容は、病院での入院患者の補助、院内図書室、外来受付の案内、院内でのイベント、病院フェスタの手伝い、緩和ケア病棟（ホスピス）での支援などです。
女性が家庭や社会で、子育て、介護、病人のケアなどにあたるための実践を学びます。
病院でのボランティアの実践を通して「苦しみ」「病」「死」に向き合うことの意味を探り、人生の終わりの選択肢について、病院ボランティアを通して考えます。

●到達目標：

病院でのボランティアを通して、病者、障害者、死と向き合う人々のケアを実践します。社会における高度医療社会、高齢化社会を支える担い手を育成します。人生の終末期をどのように過ごすか、また本人、家族にとって最期を迎えるために何が大切な、考える機会をもちます。また「苦しみ」「病」「愛」「死」についてのキリスト教的な考え方を学び、病院でのボランティア活動を通して、人間として生きることの意味と深みを見つめ、体験します。

●成績評価の基準：

リアクション・ペーパー 20％
レポート 20％
ボランティア活動 60％

●留意事項：

9月の授業開始の週に、本授業の説明会を開催します。詳しくは教務係の掲示板をご覧ください。説明会に参加しない方は、本授業を受講できませんので、注意してください。

自分の都合の良い時間を選び、平日の午前9時から4時の間に国立病院機構岡山医療センターでボランティアをします。病院では医療の現場を視察し、病人へのケアについて学び、病院内でさまざまなボランティア活動を行います。希望者は緩和ケア病棟でのボランティアもできます。

病院でのボランティアをするために、病者への理解、優しさ、ケアの心が大切です。

受け入れ先の都合上、受講者数を30名に限定します。前期、後期を通して受講できる方を優先して受け入れます。

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

病院でのボランティアを実践するために、医療関係者による講義、指導を受けます。
国立病院機構岡山医療センターの副看護部長の吉田三紀看護師を中心とする各診療科の看護師、医療スタッフ、介護士による実践的な指導を受け、ボランティアを行います。

病院での終末期の医療、緩和ケア、臨床倫理について学ぶために、10年間、医学部・病院において医師や看護師を対象とする倫理教育や倫理コンサルテーション業務に従事している田代志門氏（国立がん研究センター）を特別講師として招聘し、講義を受けます。

なお、本授業を担当している須沢かおりは、インド、エチオピア、タンザニア、タイ、フィリピンでのボランティアの経験があるばかりでなく、フランスのルルドに本部のある傷病者のための国際ボランティア組織、Hospitalité Notre-Dame de Lourdesの正会員として、十数年来ルルドで傷病者のための国際ボランティア活動に従事しています。この経験を生かし、日本において病者のケア、支援のありかたと実践を教授します。

●授業予定一覧：

1. ボランティア活動に入る前のオリエンテーション（1）
2. ボランティア活動に入る前のオリエンテーション（2）
3. 国立病院医療センターでの医療スタッフによるオリエンテーション（1）
4. 国立病院医療センターでの医療スタッフによるオリエンテーション（2）
5. 国立病院医療センターでのボランティア実践（1）
6. 国立病院医療センターでのボランティア実践（2）
7. 国立病院医療センターでのボランティア実践（3）
8. 国立病院医療センターでのボランティア実践（4）
9. 終末医療についての特別講義（国立がん研究センター、田代志門）
- 10-15 国立病院医療センターでのボランティア実践（5）ー（10）
16. 期末試験（レポート）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

病院でボランティアをする心の余裕と笑顔をもって臨んでください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

ボランティア実践Ⅰ

〔担 当 者〕原田 豊己・成澤 貴子
〔開 講 期〕1 期
〔授 業 形 態〕講義・実習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160A0-1234-o2

●本授業の概要：

国内外の様々なボランティア活動について知り、ボランティア活動の多角的な意味を考えます。また、様々な活動の生まれた背景となる歴史やその活動の経過についても学び、改めて現在の私たちの身の回りで起きていることに視点を移して考察します。瞬時に世界中の情報が手のひらのスマートフォンに乗り、その情報の真偽を見極めるのも容易ではない昨今の状況であればこそ、できるだけ現場に近づいてみて経験し、自分自身の頭で考えることが大切な時代ともいえるでしょう。その初めの一歩を踏み出す機会としてのプログラムとします。

●到達目標：

難民や災害被災地の状況、ハンセン病元患者の方々や貧困弱者と呼ばれる人々のおかれている状況など、普段あまり接することがない情報や場面に接し視野を広げることで、多様な人々との共存の在り方を場面に応じて思索することができ、また、予期せぬ状況下においても確かな判断や対応をすることができるようになる。

●成績評価の基準：

講義及び体験学習への参加態度 70%
レポート 30%

●留意事項：

体験学習では、瀬戸内市長島（愛生園／光明園等）や様々な活動現場訪問を計画していますので交通費が必要になります。
実習日については、授業時にお知らせします。
土曜または日曜の授業となることがあります。
オフィスアワーは、授業で指示します。
受講希望者が定員を超えた場合は高学年を優先するので、第1回目の授業には必ず出席すること。

●実務経験の授業への活用方法：

我が国における国際 NGO 活動の黎明期に難民支援活動の現場に赴いたことに始まり、その後も NPO 法の施行による活動の法人化と阪神淡路大震災後のボランティアの到来を経て国内外の医療・教育の分野等での活動を一貫して NPO の現場で経験してきた。現場に行かなければわからないことの重要性和同時に、問題の背景となる歴史を知ることの重要性を心得ることが問題解決につながる。その両方に触れることで、判断力を鍛えることを促す。

●授業予定一覧：

- 講義
- 1 ガイダンス
 - 2 国際協力とボランティア活動－背景となる現代史
 - 3 様々な活動の現場とその支援内容の変遷－カンボジアの場合
 - 4 様々な活動の現場とその支援内容の変遷－スリランカの場合
 - 5 様々なボランティア活動－社会のニーズ／ハンセン病患者隔離政策の歴史と回復者支援活動
 - 6 国内災害のボランティア活動の現場－災害サイクルに応じた被災者支援の在り方
 - 7 災害ボランティア シミュレーション（共同討議）

体験学習予定（順不同）

- 1 瀬戸内市長島 島内史跡めぐり 愛生園・光明園訪問 元患者さんとの交流
- 2 国際協力 NGO AMDA グループ（NPO 法人 AMDA、AMDA 社会開発機構）各本部訪問（岡山市内）
- 3 居場所づくり活動場所（岡山市内）訪問
- 4 西日本豪雨等被災地訪問

最終レポート提出

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業でその都度必要な参考図書、参考ホームページ情報を紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】
特になし

ボランティア実践Ⅱ

〔担 当 者〕服部 和也
〔開 講 期〕通年
〔授 業 形 態〕講義・実習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160A0-2340-o2

●本授業の概要：

本授業では、キリスト教精神に基づき、学校園等でのボランティア活動を通して、コミュニケーション力、コーディネート力、プレゼンテーション力、マネジメント力や保育職・教職等に関わる実践的な指導力等を育成するとともに、自己の職業適性について考察する機会につなげることを目的とする。

●到達目標：

○学校園等でのボランティア活動を通して、自己の職業適性について考察することができる。○学校園等でのボランティア活動で学んだこと等を所定の用紙に記録し、提出することができる。
○学校園等でのボランティア活動の取り組みについて、活動体験報告会に参加して検討することができる。

●成績評価の基準：

- 単位を修得するには、以下の条件を満たすことが必要である。
- ・学校園等でのボランティア活動を通年総計45時間（2700分）以上実施すること
 - ・活動の様子を所定の用紙に記録し提出すること
 - ・ボランティア活動体験報告会等に参加し意見交換をすること
- ボランティア活動の取り組み（ボランティア活動と記録） 60%
○授業説明会・中間体験報告会・事後体験報告会への参加 40%

●留意事項：

○保育職・教職等の体験型授業であり、主体的な取り組みを求める。

●実務経験の授業への活用方法：

ノートルダム清心女子大学附属小学校で教諭として19年間、教頭として8年間、校長として8年間勤務経験があり、教育実習にも関わってきているので、ボランティアを受け入れる教育現場の状況を熟知し、現場が求めている実践的な指導力について具体的な助言を行うことができる。

●授業予定一覧：

1. 授業の目的とボランティア活動の概要について
- 2～8. 学校園等でのボランティア活動の実施と記録
9. 現状の中間報告と今後の計画
- 10～15. 中間報告での反省に基づくボランティア活動の実施と記録
16. ボランティア活動全体の報告会と活動の振り返りレポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前・中間・事後指導を除くと、各自で立てた計画に沿ってそれぞれボランティア活動に参加し、活動の進捗状況の報告や連絡は、マナバフォリオと掲示板を活用して行うことになるので、確認できる状況にしておくこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

アジアと平和を考える

〔担 当 者〕原田 豊己・橋本 晶子
 〔開 講 期〕1 期
 〔授 業 形 態〕講義・実習 〔単位〕2
 〔科目ナンバリング〕160D0-2340-o2

●本授業の概要：

平和はどのように維持され、また破壊されたのか、その現実を史実に即して体験的に学ぶとともに、キリストの平和理念が現代の国際社会にどのように活かされるか、ディスカッションを通じて一緒に考える。本年度は沖縄での実習、9月2-4日（2泊3日）を予定している。

●到達目標：

到達目標

1. 大戦期における沖縄戦について述べるができる。
2. 大戦後の沖縄における問題をまとめることができる。
3. 平和の問題に関して沖縄の置かれている特殊な位置づけを説明することができる。
4. キリストの平和理念が国際社会にどのように活かされているかディスカッションできる。

●成績評価の基準：

ディスカッションへの参加度 40%（到達目標4）
 レポート、課題 60%（到達目標1, 2, 3, 4）

●留意事項：

講義および実習への参加は必須。

前期中に講義とガイダンスを行う。沖縄での実習は9月2-4日で行う。実習費用が7万円前後必要であることに注意。

なお、履修説明会を行う。必ず出席のこと。

4月10日（水）、4月17日（水）、昼休み、キリスト教文化研究所（中央棟6F）オフィスアワー 授業で指示する

●実務経験の授業への活用方法：

カトリック教会の司祭、修道女の経験を活かし、特にカトリック教会の「平和理解、平和実践、平和教育」を講義する。

●授業予定一覧：

講義（前期中）

- 1 ガイダンス
- 2 大戦期における沖縄戦
- 3 沖縄返還と基地問題
- 4 安保条約と地位協定
- 5 普天間基地移設問題
- 6 沖縄の文化的特色
- 7-8 実習の事前指導

実習（9/2-4日）沖縄での実地見学。

- 第1日 戦前 沖縄文化 首里城
- 第2日 戦跡 ひめゆり部隊撤退のルート ガマ体験
- 第3日 戦後 米軍基地
- 9 共同討議
- 10 レポート提出

講義9回、実習24時間

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業中に配布したプリントもしくは指示した参考文献、課題を授業終了後まとめる事、また、次回授業までに指示した課題を行うこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

人間存在を考える I

〔担 当 者〕須沢 かおり
 〔開 講 期〕1 期
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2
 〔科目ナンバリング〕160C0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業では「キリスト教を生きた人間存在」に焦点をあてます。

キリスト教は知識、教義、理論だけで理解できるものではなく、それを具体的に生きた人々を通して、私たちはキリスト教のメッセージを知ることができます。カトリック教会では多くの聖人がおり、聖人の生き方とその著作は、私たちに模範と導きをもたらします。この授業では、キリスト者、聖人の幾人かを取り上げ、学びます。また私たちが将来社会でどのような貢献をできるか、プロフェッショナルとして生きるかという課題について考え、社会人としてプロフェッショナルな生き方をしていく人々を取り上げます。

●到達目標：

本講義を通して、それぞれの「人間存在」が何を大切にし、何のために生きたかを探り、私たちの生き方との接点について考えます。将来、私たちが社会で、家庭で、プロフェッショナルとして生きてゆくための指針と模範を「人間存在」から学びます。

●成績評価の基準：

受講態度 20%
 リアクションペーパー 30%
 レポート 50%

●留意事項：

オフィスアワー 授業で指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. イントロダクション
2. 使徒パウロイエスに従う生き方
3. アッシジのフランシスコ (1) キリストの虜となって
4. アッシジのフランシスコ (2) 貧しさのもたらすもの
5. フランシスコ・ザビエル (1) キリスト教の宣教師
6. フランシスコ・ザビエル (2) 全世界への福音宣教
7. ルルドのベルナデッタ (1) 単純な信仰、聖母のメッセージ
8. ルルドのベルナデッタ (2) 人々のために祈りと犠牲
9. リジューのテレーズ (1) 謙遜で小さな存在、霊的幼子の道
10. リジューのテレーズ (2) すべての宣教師の保護者
11. マザー・テレサ (1) 貧しい人々に仕えて
12. マザー・テレサ (2) 痛むまでの愛
13. 渡辺和子置かれたところで咲く
14. 田村恵子ーがん専門看護師としての希望
15. まとめ
16. 期末試験（レポート）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書、参考 URL を紹介する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

授業中に指示する。

人間存在を考えるⅡ

〔担 当 者〕須沢 かおり
〔開 講 期〕2 期
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160C0-1234-o2

●本授業の概要：

著名な哲学者としてドイツをはじめとするヨーロッパで活躍し、後にキリスト者として生きた女性、エディット・シュタイン(1891-1942)の生涯とその思想を学びます、本 授業では毎回テキストとして『エディット・シュタインー真理への献身』を使用し、ナチスのユダヤ人迫害の犠牲となり、アウシュヴィッツのガ ス室で亡くなったエディット・シュタインについて理解を深め、現代に 生きる私たちとの接点を考察します。

●到達目標：

テキストを丁寧に読み込むことによって、シュタインの言葉と生き方に ふれ、哲学、人間学、社会学、女性論、教育学、霊性などの領域において、エディット・シュタインのキリスト教的視点と理解について全体像を明らかにします。 キリスト教の視点に根ざした女性の生き方と思想を学ぶことを通して、将来、社会人として、家庭、職場で充実した生き方を実現するための 糧を得られるよう願っています。

●成績評価の基準：

プレゼンテーション 40％
授業への参加態度 20％
レポート 40％

●留意事項：

オフィスアワー 授業で指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. エディット・シュタインの生涯についての紹介
2. 映画「エディット・シュタイン」上映
3. ユダヤ人の家庭から
4. フツサールの弟子
5. 信仰への歩み
6. 教育者として生きる
7. 女性として生きる
8. ペルソナ論
9. トマスの思想との邂逅
10. ナチス迫害下での社会思想の展開
11. アピラのテレサとの霊的絆
12. 十字架のヨハネ解釈ー『十字架の学問』
13. アウシュヴィッツでの死
14. キリストへの道行き
15. 期末試験（レポート）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

テキストをよく読んで授業に臨むこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

『エディット・シュタインの道程ー真理への献身』（知泉書館）を必携書として用います。
初回授業時に販売いたします。

日本語表現Ⅰ

〔担 当 者〕山根 道公
〔開 講 期〕1 期
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160B0-1234-o2

●本授業の概要：

四季のめぐる自然を豊かに感じとる言葉、自分の人生を支える言葉、自分と他者をつなぐ言葉、そうした日本語表現の言葉の力を養うことをめざす。そのために、まず歳時記を使って自然を豊かに表現できる日本語を磨き、俳句を作る。次に、創造的な表現について学び、自分の人生を支える言葉を探り、詩やエッセイを書く。そして、自分と他者をつなぐ言葉の技術を学び、手紙を書く。また、論理的な文章表現の技法を学び、自分が最も他者に薦めたい本のブックレポートを書く。そうした文章表現の実作をし、それを授業の中で発表し、評価しあうことで、文章表現力を養う。こうした学びをさらに深めるために、「詩とは何か」「人生を支える言葉」をテーマに批評家の若松英輔氏の特別講義を行う。また、「キャリアと言葉」をテーマに「女、今日も仕事する」の著者の大瀧純子氏の特別講義を行う。

●到達目標：

1. 歳時記を使って自然を豊かに表現できる日本語を磨き、俳句を作ることができる。
2. 自らの感受性を開花させ、創造的な表現で詩やエッセイを作ることができる。
3. 正確で礼儀にかなった表現と形式で相手に思いを伝えられる手紙を書くことができる。
4. キャリアをめぐって自分を表現できる。
5. 論理的な文章表現の技法を理解し、ブックレポートを書くことができる。
6. 授業の内容をまとめ、意見を述べることができる。

●成績評価の基準：

- 受講態度・リアクションペーパー…30％（到達目標6）
- 授業中の課題…40％（到達目標1234）
- 期末レポート…30％（到達目標5）

●留意事項：

- 授業が一方通行にならないように毎回、意見・質問等を書いたリアクションペーパーを提出してもらうので、主体的に臨むこと。
- 日本語の表現力を高めることをめざし、多くの課題を出し、その発表をしてもらうので、積極的に取り組む受講態度が必要。
- オフィスアワーは授業中に指示する。
- 特別講義（講師：若松英輔、大瀧純子）の日程等については授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

若松英輔氏は、批評家・随筆家・詩人として多くの著作で賞を取り、NHK100分 de 名著の番組に何度も出演するなど活躍する傍ら、講座「読むと書く」を主宰し、生きづらさを抱える人が読むと書くを深めることで人生を支える言葉に出会うのを促す実践に携わっている。そうした経験を生かして、学生が書く力を深め、人生を支える言葉に出会うのを促す。大瀧純子氏は、「読むと書く」を運営する（株）言葉とコトバ社代表取締役、および（株）シナジーカンパニージャパン代表取締役でJCDA 認定キャリアカウンセラーでもあり、「女、今日も仕事する」の著者でもある経験を生かして、学生がキャリアをめぐって自分を表現する力を育てるように促す。

●授業予定一覧：

1. 導入 春を感じて表現するー歳時記を開く
 2. 俳句を作る
 3. 手紙の表現と形式
 4. 手紙を書く
 5. 創造的な文章の書き方
 6. 詩を書く
 7. エッセイを書く
 8. 論理的な文章の書き方
 9. ブックレポートを書く
 10. 詩とは何か 特別講義（講師：若松英輔）
 11. 人生を支える言葉とは何か 特別講義（講師：若松英輔）
 12. キャリアと言葉ー自分を表現する 特別講師（大瀧純子）
 13. キャリアと言葉ー人間関係を支える 特別講師（大瀧純子）
 14. 句会を開く
 15. まとめ・合評
- 期末レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・毎回の授業で、次回までにやってくる課題を出し、その中から授業で発表してもらう課題も出すので、自信をもって発表できるように準備をしっかりとすること。
- ・発表した原稿は最後に文集にまとめるので、発表後もさらに推敲して完成度の高い作品にしあげること。

【必携書（教科書販売）】

速水博司『大学生のための文章表現入門』（蒼丘書林）
若松英輔 特別授業「自分の感受性くらい」、若松英輔、NHK 出版

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

日本語表現Ⅱ

〔担 当 者〕 小林 修典
 〔開 講 期〕 1 期
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 160B0-1234-o2

●本授業の概要：

「小論文ワークショップ」では、自らの考えや意見を、明瞭かつ正確に、相手に伝える文章の書き方を学び、実際に小論文を書いていく。文章を書く技術だけでなく、書くための準備や計画の立て方を学ぶ。

●到達目標：

- 1 与えられたテーマで、小論文(800字程度)を完成させることができるようになる。その過程で、自らの意見を客観的に見つけ、読み手の視点も考慮できるようにすることが期待される。
- 2 論文を書くために必要な技術を身につける。

●成績評価の基準：

平常点（提出物など）40%（到達目標1、2）
 小論文 60%（到達目標1、2）

●留意事項：

学生が書いた小論文は、クラスで批評する。随筆などの文学的文章は扱わない。オフィスアワーは授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- I イントロダクション
- 1 読みやすい文章とは
- II 小論文ワークショップ
 （以下は小論文のテーマ）
- 2 東京オリンピック
 - 3 自然災害への対策
 - 4 男女共同参画社会
 - 5 外国人観光客の増加
 - 6 外国人労働者の受入れ
 - 7 ワークライフバランス
 - 8 日本の農業
 - 9 少子高齢化社会
 - 10 食の安全
 - 11 小学校での英語教育
 - 12 グローバル化
 - 13 子どものインターネット・スマホ利用
 - 14 環境問題
- III まとめ
- 15 発表

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

予習として、学生は毎回、あらかじめ与えられたテーマにそって考えをまとめ、アウトラインを書いてくる。それを授業中に批評、添削する。復習として、600字程度の小論文を完成させ、翌週の授業時に提出する。毎回必ず出席し、予習、復習を欠かさないことが求められる。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>
 適宜、授業中に指示する。
 <参考書等>
 必要に応じて、印刷物を配布する。

日本語表現Ⅲ [a]

〔担 当 者〕 木山 博雅
 〔開 講 期〕 1 期
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 160B0-1234-o2

●本授業の概要：

相手に伝わる文章を書くためのヒントは身近なところにある。活字メディアとして日々の出来事や社会の動きを伝えてきた新聞もその一つである。本授業では、NIE（Newspaper in Education）の一環として新聞を積極的に活用する。事実を的確にとらえ、問題を掘り下げて分かりやすく表現する記事やコラムを構造的に理解し、書くことを通して、文章表現の知識と技術を身につけるための基礎を学ぶ。

●到達目標：

- ・自己表現、コミュニケーションの重要な手段である文章表現の方法を身につける。
- ・論理的、客観的な文章の技法を理解し、レポートや論文を書く力を養う。

●成績評価の基準：

- 受講態度・リアクションペーパー 30%
- 授業中の課題 40%
- 期末レポート 30%

●留意事項：

○授業の中で課題を出し、受講者が発表するとともに相互に批評、ディスカッションする。
 受講者は主体的に授業に臨むこと。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 新聞というメディア（1）－その過去、現在、未来
 2. 新聞というメディア（2）－構造とコンテンツ
 3. 新聞というメディア（3）－文章の特徴
 4. 記事を書いてみる（準備編）
 5. 記事を書いてみる（実践編）
 6. 発表と批評・ディスカッション
 7. 発表と批評・ディスカッション
 8. コラムから学ぶ（1）－読み比べ
 9. コラムから学ぶ（2）－構造を考える
 10. コラムから学ぶ（3）－推敲とは
 11. コラムを書いてみる（準備編）
 12. コラムを書いてみる（実践編）
 13. 発表と批評・ディスカッション
 14. 発表と批評・ディスカッション
 15. まとめ
- 期末レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：
 適宜授業で指示する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>
 プリント等を授業中に配布

日本語表現Ⅲ [b]

〔担当 者〕 木山 博雅
 〔開 講 期〕 2 期
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 160B0-1234-o2

●本授業の概要：

相手に伝わる文章を書くためのヒントは身近なところにある。活字メディアとして日々の出来事や社会の動きを伝えてきた新聞もその一つである。本授業では、NIE（Newspaper in Education）の一環として新聞を積極的に活用する。事実を的確にとらえ、問題を掘り下げて分かりやすく表現する記事やコラムを構造的に理解し、書くことを通して文章表現の知識と技術を身につけるための基礎を学ぶ。

●到達目標：

- ・自己表現、コミュニケーションの重要な手段である文章表現の方法を身につける。
- ・論理的、客観的な文章の技法を理解し、レポートや論文を書く力を養う。

●成績評価の基準：

- 受講態度・リアクションペーパー 30%
- 授業中の課題 40%
- 期末レポート 30%

●留意事項：

○授業の中で課題を出し、受講者が発表するとともに相互に批評、ディスカッションする。
 受講者は主体的に授業に臨むこと。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 新聞というメディア（1）－その過去、現在、未来
 2. 新聞というメディア（2）－構造とコンテンツ
 3. 新聞というメディア（3）－文章の特徴
 4. 記事を書いてみる（準備編）
 5. 記事を書いてみる（実践編）
 6. 発表と批評・ディスカッション
 7. 発表と批評・ディスカッション
 8. コラムから学ぶ（1）－読み比べ
 9. コラムから学ぶ（2）－構造を考える
 10. コラムから学ぶ（3）－推敲とは
 11. コラムを書いてみる（準備編）
 12. コラムを書いてみる（実践編）
 13. 発表と批評・ディスカッション
 14. 発表と批評・ディスカッション
 15. まとめ
- 期末レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：
 適宜授業で指示する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞
 プリント等を授業中に配布

日本語表現Ⅳ [a]

〔担当 者〕 木山 博雅
 〔開 講 期〕 1 期
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 160B0-1234-o2

●本授業の概要：

考える力、表現する力を育て、コミュニケーション力をつける有効な学習法として、新聞を活用した学びであるNIE（Newspaper in Education）が注目されている。本授業では新聞における文章表現にも着目。情報社会とメディアの現在についての理解を深めながら、ニュース報道記事、1面コラム、論説文などそれぞれ異なる構造を持つ文章を読み、実際に書いてみることを通して、分かりやすく論理的で心に届く文章表現力を養う。

●到達目標：

- ・マスメディアとマスコミュニケーションの現在について学び、現代人として身につけておくべき知識を習得する。
- ・情報を批判的に読み解くメディアリテラシーの力をつける。
- ・コラムや論説文を書くことで、社会に主体的に関わりながら自らの主張、意見を表現できる文章表現技術を身につけ、社会のさまざまな場で活躍できる力を養う。

●成績評価の基準：

- 受講態度・リアクションペーパー 30%
- 授業中の課題 40%
- 期末レポート 30%

●留意事項：

○授業の中で課題を出し、受講者が発表するとともに相互に批評、ディスカッションする。
 ○受講者は主体的に授業に臨むこと。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. マスメディアとマスコミュニケーション
 2. 新聞というメディア（1）－地方紙と全国紙の今
 3. 新聞というメディア（2）－構造とコンテンツ
 4. 新聞というメディア（3）－メディアリテラシー
 5. 新聞の文章作法
 6. 記事を書いてみる
 7. 発表と批評・ディスカッション
 8. コラムから学ぶ（1）－読み比べ
 9. コラムから学ぶ（2）－構造をみる
 10. コラムを書いてみる
 11. 発表と批評・ディスカッション
 12. 社説から学ぶ
 13. 社説を書いてみる
 14. 発表と批評・ディスカッション
 15. まとめ
- 期末レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：
 適宜授業で指示する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞
 プリント等を授業中に配布

日本語表現Ⅳ [b]

〔担当 者〕 木山 博雅
 〔開 講 期〕 2 期
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 160B0-1234-o2

●本授業の概要：

考える力、表現する力を育て、コミュニケーション力をつける有効な学習法として、新聞を活用した学びであるNIE（Newspaper in Education）が注目されている。本授業では新聞における文章表現にも着目。情報社会とメディアの現在についての理解を深めるとともに、ニュース報道記事、1面コラム、論説文などそれぞれ異なる構造を持つ文章を読み、実際に書いてみることを通して、分かりやすく論理的で心に届く文章表現力を養う。

●到達目標：

・マスメディアとマスコミュニケーションの現在について学び、現代人として身につけておくべき知識を習得する。
 ・情報を批判的に読み解くメディアリテラシーの力をつける。
 ・コラムや論説文を書くことで、社会に主体的に関わりながら自らの主張、意見を表現できる文章表現技術を身につけ、社会のさまざまな場で活躍できる力を養う。

●成績評価の基準：

○受講態度・リアクションペーパー 30%
 ○授業中の課題 40%
 ○期末レポート 30%

●留意事項：

○授業の中で課題を出し、受講者が発表するとともに相互に批評、ディスカッションする。
 ○受講者は主体的に授業に臨むこと。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 マスメディアとマスコミュニケーション
 - 2 新聞というメディア（1）－地方紙と全国紙の今
 - 3 新聞というメディア（2）－構造とコンテンツ
 - 4 新聞というメディア（3）－メディアリテラシー
 - 5 新聞の文章作法
 - 6 記事を書いてみる
 - 7 発表と批評・ディスカッション
 - 8 コラムから学ぶ（1）－読み比べ
 - 9 コラムから学ぶ（2）－構造をみる
 - 10 コラムを書いてみる
 - 11 発表と批評・ディスカッション
 - 12 社説から学ぶ
 - 13 社説を書いてみる
 - 14 発表と批評・ディスカッション
 - 15 まとめ
- 期末レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

適宜授業で指示する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>
 プリント等を授業中に配布

日本語表現Ⅴ

〔担当 者〕 森田 恵子・久保田 正彦
 〔開 講 期〕 1 期
 〔授 業 形 態〕 講義・演習・実習 〔単位〕 2
 〔科目ナンバリング〕 160B0-1234-o2

●本授業の概要：

本当に伝えたいことは何なのか。

伝わる、伝わらない、その差は何かを自ら掘り起こしながら、就職活動だけではなく一人の社会人として必要なコミュニケーション力を体得していく。「口頭表現」としては、人との関わりに必要な「聴く」「伝える」を演習、実践を通して学びを深めていく。学んだことを実際に活かし振り返り、さらに行動に結び付けていくために、提示された課題に対して積極的に取りくむことが望まれる。また、マスコミの記事や情報誌などを例にあげ、簡潔でわかりやすく、相手の心に届く文章を書くための基礎知識を学び、「文章作成」についても触れていく。

●到達目標：

・自分のコミュニケーションの状態を知る。
 ・「伝える力」「聴く力」を身につけ、日常生活で活かせるようになる。
 ・ロジカルな考え方、簡潔で分かりやすい文章を書けるようになる。

●成績評価の基準：

・レポート提出（テーマは授業内で伝える） 25点
 ・「身近な女性にインタビュー」一連の課題 25点
 ・定期試験（口頭発表） 50点

※授業中のマナーや発言など、授業への取り組み度も評価につながる。

●留意事項：

・自分たちが授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表など場への貢献を大いに望むが、上手に流暢に発表することを目的にはしていない。
 ・シラバスの順番は、受講生徒の様子、進捗状況によって変更することもある。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 講義内容説明～なぜ「日本語表現」を学ぶのか
 2. 伝える力・聴く① 自己紹介①
 3. 伝える力・聴く② 自己紹介②
 4. 非言語がもつ力～表情・しぐさ・身体表現など
 5. 「身近な女性にインタビュー」①準備、依頼の仕方
 6. 「身近な女性にインタビュー」②相手の話を引き出す質問
 7. 新聞・情報誌から見る「伝わる文章」
 8. おすすめの岡山を書く①（文章作成）
 9. おすすめの岡山を書く②（口頭発表）
 10. 「身近な女性にインタビュー」③進捗確認
 11. おすすめの岡山を書く③（まとめ）
 12. 『やさしい日本語』とは
 13. 日本語表現と『やさしい日本語』
 14. 「身近な女性にインタビュー」④（口頭発表）
 15. まとめ・質疑応答
- 定期試験（口頭発表）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の講義を復習し日常生活で実践することが、この講義における大きな学びです。自身が取り組んでみたことで感じた疑問点や質問なども、講義内で全体に共有してほしいと考えています。毎回の講義はもちろんのこと、講義外での学習を自ら進めていくことを望みます。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>
 プリント等を授業中に配布

日本語表現Ⅶ

〔担 当 者〕森田 恵子・久保田 正彦
〔開 講 期〕2期
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160B0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業のねらいは、「他者との関わりを通してコミュニケーションの基礎を体得していく」ことである。日頃使っている言葉や表現、相手の表現を理解することを改めて振り返り、自分の伝達能力を高め、円滑な人間関係を築いていくことに繋げていく。そのために、本授業では、「聴く」「伝える」「自分を知る」「相手を知る」をベースに実践と体験学習を展開。気付いたことを全員でシェア（共有）しながら学びを深めていく。

●到達目標：

- ・自分のコミュニケーションの状態を知る
- ・「できない」を「できる」に変える意識がもてるようになる
- ・協働により学びを深め日常生活に活かせるようになる

●成績評価の基準：

授業への取り組み度（マナー、発言など）	40%
レポート（テーマは授業内で伝える）	20%
定期試験（口頭発表）	40%

●留意事項：

授業への取り組み、定期試験などで上手に発表することを目的にはしていない

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 講義内容説明～まずは声を出してみよう。簡単な自己紹介
 2. 自己紹介～話す材料・組み立て・自分をアピールする方法
 3. コミュニケーションとは
 4. コーティング入門1～「聴く」「承認する」
 5. コーティング入門2～「質問の種類」「フィードバック」
 6. コーティング入門3～「自分を知る」「相手を知る」
 7. 他己紹介～他者取材するポイント
 8. 他己紹介～他者を魅力的にアピールする
 9. 言葉づかい～敬語・クッション言葉・NGワードなど
 10. 電話のかけ方・受け方
 11. フリートーク～短いセンテンスでわかりやすく
 12. フリートーク～話し言葉を意識し自分らしさを活かす
 13. ブックリストの交換～好きな本を伝える
 14. ブックリストの交換～リストの本について意見交換
 15. テレビ・ラジオの世界から～気になる言葉や表現など
- 定期試験（口頭発表）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞
プリント等を授業中に配布

ディスカッションから社会を考える

〔担 当 者〕濱西 栄司
〔開 講 期〕1期
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160F0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業の目的は、アクティブ・ラーニングの方式を用いて、社会学の基本的な姿勢・技法について理解することにある。社会学は同時代の社会現象を捉えようとする学問であり、メディアや日常生活を通して形成される先入観や思い込みから距離を置き、対象に冷静かつ客観的に向き合う姿勢を基本としている。本授業では、そのような姿勢を理解した上で、議論を通じた視座の多角化や資料の批判的読解に関する技法を具体的に学び、現代社会を自立的・主体的に生きる力を身につけていく。なお本授業もキャリア教育科目の側面を有しているので、グループディスカッションの作法等も学べるようにする。

●到達目標：

- ①現代社会の諸課題について多角的に考え、簡単な意見交換をすることができる。
- ②資料やディスカッションをもとに、自分の考えを文章で表現することができる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み：35%（到達目標①）
ワークシート：35%（到達目標①②）
期末レポート：30%（到達目標②）

●留意事項：

- ・ディスカッションの得意不得意は、成績評価に一切関係しない（他人と話すことが苦手でも全く問題ない）。
- ・各回のテーマ等は『グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング』（三省堂）に基づいている（履修者が同テキストを購入する必要はない）。

オフィスアワー：授業中に指示する（履修者数に応じて定める）。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. オリエンテーション
- 【第1部 いいか悪いか考える】
2. コンビニ深夜営業規制、是か非か——図式化して整理する
 3. 携帯電話のアンテナ設置に税金投入？——多角的に考える
 4. 「若者言葉」を考える——言葉と社会を考える・1
 5. 定住外国人に教える日本語は？——言葉と社会を考える・2
 6. 商店街へ税金投入？——公共性を考える
- 【第2部 根本から考える】
7. 民族って何だ？——概念をとらえ直す・1
 8. 貧困って何だ？——概念をとらえ直す・2
 9. 会社は誰のものか——組織とは何か、経済とは何かを考える
 10. 累進課税を考える——税金のあり方を考える
- 【第3部 構想する】
11. どの記事を採用する？——メディアを考える
 12. どれがよい環境保全活動？——環境保全と公共性・1
 13. 歴史的建造物を保存すべき？——環境保全と公共性・2
 14. どれがよいまちづくり？——コミュニティを考える
 15. 大学の未来のプランを作ろう——アイデア発想とコミュニティ・プラン

※各回の授業は基本的に（1）前回ワークシートの返却、（2）今回のテーマの説明と資料等の配布、（3）個人での考察とワークシート前半部の記述、（4）簡単なグループディスカッション、（5）再び個人での考察とワークシート後半部の記述、（6）全体の総括と解説、（7）ワークシートの回収、という流れで進む。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）各回のテーマについて、事前に、書籍・論文（*）・新聞・TV・Web等で情報を収集しておくこと（各回3時間程度）。事前に友人や家族と簡単に意見を交換した上で授業に臨むと、得るものが多い。なお事前学習の成果は、ワークシート（回収）に適宜、書き込んでおくこと。

（*）学術論文は最も信頼できる情報源であるが、「J-stage」のウェブサイト上で数多く無料で公開されている。J-stageは、文部科学省所管の独立行政法人科学技術振興機構（JST）運営の電子ジャーナルの無料公開システム。簡単に論文を検索できるサイトなので、利用して準備学習に生かしてほしい。トップページは↓
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
（検索サイトで「J-stage」で検索してもすぐにてくれる）

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

共生と文化を考える

〔担 当 者〕小野 真由美

〔開 講 期〕2 期

〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2

〔科目ナンバリング〕16010-1234-o2

●本授業の概要：

本授業の目的は、文化人類学の基礎的な考え方やものの見方をおして、共生と文化について考えることにある。様々な差異をもつ人々と共に生きるということについて考え、共に生きていくために必要なもののみかた・視点を得るには、まず、自分自身が慣れ親しんできた文化や習慣、価値観など、自分にとって「当たり前」とされる行動様式や前提となるものの見方について問い直すことが必要となる。

本授業は、医療や介護など「他者へのケア」に関する領域、ジェンダーや身体的な差異をめぐる「生の多様性」に関する領域、さらに移民や難民など「グローバルな人の移動」に関する領域のテーマを扱い、共生と文化について考察する。

●到達目標：

- 1) 世界の様々な国や地域の事例を取り上げ、文化的差異をもつ人々の日常的な実践や問題を理解し、異文化を相対的に捉えることができる。
- 2) 様々な差異をもつ人々がひとつの世界に共に生きていくことをめぐる現代的状況とその課題について考察し、自分の意見を述べることができる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み	20%
課題	30%
レポート	50%

●留意事項：

オフィスアワー 月曜日 7,8時限

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. イントロダクション
2. 文化人類学における文化の捉え方
3. 国際コミュニケーションと異文化理解
4. 他者へのケアから考える①オセアニアの民間医療
5. 他者へのケアから考える②北欧の高齢者介護
6. 他者へのケアから考える③インドの不妊治療
7. 他者の語りから理解する
8. 生の多様性から考える①日本の LGBT
9. 生の多様性から考える②タイの「カトゥーイ」
10. 生の多様性から考える③アメリカの肥満問題
11. 多文化主義と多文化共生
12. グローバルな人の移動から考える①ベトナム難民
13. グローバルな人の移動から考える②海外移住・長期滞在
14. グローバルな人の移動から考える①無国籍
15. 総括—ひとつの世界にともに生きることを学ぶ

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業中に紹介された参考資料を読むこと、授業中で出された課題に取り組むこと、授業で扱う内容に関連する新聞記事や文献などを検索し、様々な意見に触れること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

自立力育成ゼミ I [a]

〔担 当 者〕Christopher Creighton

〔開 講 期〕1 期

〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2

〔科目ナンバリング〕160J0-1234-o2

●本授業の概要：

This course will review key concepts in “Western Civilization”. The key concepts will be drawn from all disciplines and feature topics based on history, philosophy, science, engineering, education, sociology, and art selected from the 3000 year span during which the “West” has emerged as an idea. Students will significantly develop their ability to attend, actively participate in, and effectively and appropriately contribute in an academic context.

●到達目標：

- There will be a series of lectures on events, discoveries, and movements from the roots of Western Civilization in ancient Greece to the emergence of modern democracy. Students will:
1. infer the author's intention in a background reading presenting one point of view on a particular question
 2. understand and integrate a listening offering a conflicting opinion
 3. offer their opinions and be able to defend them during the lecture and the involved discussion
 4. consolidate their understanding by expressing a logical, evidenced-based essay that summarizes the main points of the reading, introduces the opposing elements from the lecture and discussion, and presents a conclusion.

●成績評価の基準：

Written: 10 summaries: 40%
Spoken: 10 recordings: 40%
pre-test/post-test score increase: 20%

●留意事項：

This course is an elective seminar so students are expected to attend and be prepared for every lesson. Students are also expected to complete all assignments on time, actively participate in all class activities and communicate as much as possible in English. Students are encouraged to ask questions at any time during lessons.
Office Hours: office hours will be announced in class. Students may speak with the instructor before or after any class as well as ask questions by e-mail at any time.

●実務経験の授業への活用方法：

This is an ENGLISH only course however it is open to students from any department. It is expected that participating students wish to carry out content related study overseas and need to develop the required basic skills to be effective participants.

●授業予定一覧：

Topics may cover the following areas subject to change:

Ancient Greece and Hellenistic Civilization
Political evolution to Periclean Athens
Periclean Athens through the Peloponnesian Wars
Culture, religion, and thought of Ancient Greece
The Hellenistic political structure
The culture, religion, and thought of Hellenistic Greece
Ancient Rome
Political evolution of the Republic and of the Empire (economic and geographical context)
Roman thought and culture
Early Christianity
The Germanic invasions
The late empire
When did the Roman Empire end?
Medieval History
Byzantium and Islam
Early medieval politics and culture through Charlemagne

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

この授業では、世界の各地で日々生起している問題を題材にします。日ごろから新聞やテレビのニュースをチェックするなど、問題関心を深めるようにしましょう。
また、数回の外部実習後には、討論する機会を設けます。自分の気づきや主張を、自分の言葉で表現できるよう準備してください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】
Materials will be provided by the instructor

自立力育成ゼミ I [b]

〔担 当 者〕 Christopher Creighton

〔開 講 期〕 2 期

〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2

〔科目ナンバリング〕 160J0-1234-o2

●本授業の概要：

This course will review key concepts in “Western Civilization”. The key concepts will be drawn from all disciplines and feature topics based on history, philosophy, science, engineering, education, sociology, and art selected from the 3000 year span during which the “West” has emerged as an idea. Students will significantly develop their ability to attend, actively participate in, and effectively and appropriately contribute in an academic context.

●到達目標：

There will be a series of lectures on events, discoveries, and movements from the roots of Western Civilization in ancient Greece to the emergence of modern democracy. Students will:

1. understand the author's intention in a background reading presenting one point of view on a particular question
2. follow and grasp the main points of a guided discussion offering a conflicting opinion on the topic in question
3. prepare a summary of the main points of the reading and the lecture detailing the points of conflict
4. complete a logically structured, evidenced-based essay summarizing the reading and the lecture.

●成績評価の基準：

Assessment:

Written: 10 summaries: 40%

Spoken: 10 recordings: 40%

pre-test/post-test score increase: 20%

●留意事項：

This is an ENGLISH only course however it is open to students from any department. It is expected that participating students wish to carry out content related study overseas and need to develop the required basic skills to be effective participants.

●実務経験の授業への活用方法：

This course is an elective seminar so it is expected that students who sign up for this class will be fully prepared to be active participants.

●授業予定一覧：

Topics may cover the following periods (subject to change):

Feudal and manorial institutions
The medieval Church
Medieval thought and culture
Rise of the towns and changing economic forms
Feudal monarchies
The late medieval church
Renaissance and Reformation
The Renaissance in Italy
The Renaissance outside Italy
The New Monarchies
Protestantism and Catholicism reformed and reorganized
Early Modern Europe, 1560-1648
The opening of the Atlantic
The Commercial Revolution
Dynastic and religious conflicts
Thought and culture

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

Materials will be provided by the instructor

自立力育成ゼミ II

〔担 当 者〕 小川 賢一 他 2 名

〔開 講 期〕 1 期

〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2

〔科目ナンバリング〕 160J0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業は、さまざまな消費者問題と環境問題を学ぶことで、消費者の生活における諸問題を理解し、自立した消費者として多様化・複雑化した諸問題に対処できる能力を修得することを目的とする。授業では、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどアクティブ・ラーニングを行い、身近な消費問題や環境問題の実態を把握する機会を持つ。そしてこれらを総合し、消費者として自立することの意味を考察する。

●到達目標：

- ① 課題を通じて、問題点を抽出して調べることができる。
- ② 論点を要約し、プレゼンテーションやグループ討論等で説明できる。
- ③ 消費者として、必要な知識と態度を身につけることができる。
- ④ 自立した消費者として、さまざまな問題に対処できる。

●成績評価の基準：

レポート 30% (①、②)

定期試験 70% (①、②、③、④)

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

質問は随時、直接受け付ける。

身のまわりのさまざまな事例（契約など）から問題点（消費者被害など）を考える。

図書館、Web の利用は必須である。

●実務経験の授業への活用方法：

県消費者センターで消費者トラブルのコーディネーターとして長年、消費者相談に携わっている豊富な経験から、消費者トラブルの相談事例を多角的に取り上げ、想定される解決策と実行可能な解決策の違いを実証するなどしていくことで、学生に問題解決プロセスの構築やトラブル回避能力の育成を促す。

●授業予定一覧：

- 1 消費者とは何か。消費者問題の基礎知識（矢吹・小川）
- 2 商品・サービス取引に関する問題
- 3 情報通信・決済に関する問題
- 4 消費者問題について考える①（ワークショップ）
- 5 消費者問題について考える②（ワークショップ）
- 6 事例研究の発表
- 7 地球環境と私たちの生活とのつながりを考える（池田・小川）
- 8 身近な自然環境を考える
- 9 環境模擬裁判から選択問題を考える
- 10 持続可能な生産と消費について考える
- 11 環境提言ワークショップ
- 12 環境問題の総括対話
- 13 消費者の立場から環境問題を考える（小川）
- 14 課題研究の発表
- 15 総合討論とまとめ
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業で出された課題を次回の授業までに調べて、プレゼンテーション並びに討論ができるように準備する。また、授業ののち、内容に関して学修への助言や参考図書等を適宜紹介する。それらを参考に興味内容について理解を深める。レポート・試験では、それらをもとに多角的・発展的な知識や論述等を求める。付け焼き刃では対応できないので、毎回の授業を真剣に聞くとともに、十分な授業外学習をしてほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

授業中に、適宜資料を配付する。必要に応じてプリントを配布する。

自立力育成ゼミⅡ

〔担 当 者〕西 隆太郎
〔開 講 期〕1 期
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160J0-1234-o2

●本授業の概要：

【子どもと出会う保育学（演習）】

保育は、子ども達と出会い、かかわることで成り立っています。したがって、保育を理解し、保育を研究するとき、何よりも自分自身で子ども達と出会うことが、その出発点になります。

本授業では、附属幼稚園で子ども達と出会い、ともに遊び、その体験についてディスカッションを行うことで、子どもと保育への理解を深めます。

また、保育をはじめとする、人間関係の研究方法を学びます。自ら人とかかわる中で研究する、心理学的・教育学的・社会学的なフィールドワークの方法論について考察します。

授業は次のようにして進みます。

<保育参加体験（5回）>

授業時間内に附属幼稚園を訪れ、自由遊びの時間に子ども達とかかわります。その体験を、次の授業までに記録しておきます。

<ディスカッション>

子ども達と出会った体験について、自由に話し合います。話し合いから生まれたテーマについて、関連する文献・資料を読み解き、話し合います。

<研究法についての考察>

保育を理解する視点や、事例研究の方法について学びます。テキストや関連する文献・資料を読み解き、話し合います。

●到達目標：

1. 子どもとのかかわりとその理解について、体験を通して学ぶ。
2. 子どもと出会う体験を記述し、文献・資料を踏まえた考察を行うことで、一つの事例研究をまとめ、期末レポートとする。

●成績評価の基準：

1. 授業への取り組み 50%

子どもたちに敬意をもって出会い、その体験についての省察を深め、記録を作成し、ディスカッションを行うことができる。

2. レポート 50%

子どもたちと出会う体験とこれに関する考察をレポートにまとめ、保育学における一つの事例研究としてまとめることができる。

●留意事項：

オフィスアワー 金曜日 3,4時限

●実務経験の授業への活用方法：

臨床心理士、スクールカウンセラー等の経験を生かし、子ども・保育についての実際の理解を深めます。

●授業予定一覧：

1. オリエンテーション
 2. 保育を理解する視点
 3. 保育参加体験 (1) (子どもと出会う)
 4. ディスカッション (1) (子どもと出会う)
 5. 保育参加体験 (2) (子どもと親しむ)
 6. ディスカッション (2) (子どもと親しむ)
 7. 保育参加体験 (3) (遊びを表現として見る)
 8. ディスカッション (3) (遊びを表現として見る)
 9. 保育参加体験 (4) (遊びの中のイメージの広がり)
 10. ディスカッション (4) (遊びの中のイメージの広がり)
 11. 保育参加体験 (5) (かかわりの体験と省察)
 12. ディスカッション (5) (かかわりの体験と省察)
 13. 事例記述の方法論
 14. 事例解釈の方法論
 15. まとめ
- 定期試験（レポートによる）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

保育参加の日は、9時過ぎから10時まで、附属幼稚園を訪れます。子ども達に敬意を持ってかわり、次回までにその体験を記録にまとめ、ディスカッションに積極的に参加するようにしてください。

授業についての連絡・フィードバックを双方向的に行うため、manaba folioを使用します。受講者は必ず、manaba folio 掲示板のリマインダ機能をオンにして、内容を見ておくようにしてください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

・西 隆太郎「子どもと出会う保育学——思想と実践の融合をめざして」ミネルヴァ書房
授業中に2000円で販売します。

<参考書等>

毎回の講義でお伝えします。図書館1Fに西の授業に関する指定図書コーナーを設けていますので、手に取ってみてください。

自立力育成ゼミⅣ

〔担 当 者〕小林 謙一
〔開 講 期〕2 期
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2
〔科目ナンバリング〕160J0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業は、「食べることは生きること」をキーワードとして、「食」を生物学的、社会的、心理的、現代社会的な側面から、理解と思考を深める。また、「食」の問題と「情報」の問題の類似点を探り、その「解決点」を模索する。これらの考え方にに基づき、自ら課題を設定し、その課題に対して、情報を適切に収集・選択・整理し、プレゼンテーションやグループディスカッションを行う。その中で、集団の中で自らの意見を適切に表現できるようにする。

●到達目標：

・「食」について、様々な観点から思考ができるようになる。

・「食」やそれを取り巻く「社会」に対して、適切な「問題意識」をもち、それに基づく「課題」設定能力を身につけることができる。

・「課題」に取り組むための情報を適切に収集・選択したうえで、その情報を批判的に読み取る能力を身につけることができる。

・これらの「課題」をグループ内で発表し、議論・討論することで、集団の中で自らの意見を表現できるようになるとともに、多くの意見を集約し整理できる能力を身につけることができる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度 30%

課題 30%

レポート 40%

●留意事項：

- ・毎回の課題があり、準備が必要である
- ・オフィスアワー：授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. オリエンテーション
2. 「食」とはなにか？
3. 「食」を生物学的に考える
4. 「食」を栄養学的に考える
5. 「食」を心理的に考える
6. 「食」を歴史的に考える
7. 「食」を文化的に考える
8. 総合討論（1）「食べる」ことの意味について
9. 現代の「食」とメタボロームシンドローム
10. 現代の「食」と「情報」
11. 「食」とメタボと「情報」のメタボ
12. 現代の「食」と「疲労」
13. 現代の「食」と「こころ」
14. 総合討論 - 「食」の今日的な課題と未来への提言 -
15. まとめ

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書および URL を紹介する。その内容をあらかじめ読んでおくこと。レポート課題では、それらの参考文献や授業の内容を整理したうえで、テーマに関してより多角的に、発展的な論述を作成してほしい。また、総合討論はグループによる発表を予定しているので、発表の準備などを協力して行なってほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

授業で指示する

自立力育成ゼミ V

〔担 当 者〕 清水 純一
〔開 講 期〕 1 期
〔授 業 形 態〕 演習・講義 〔単位〕 2
〔科目ナンバリング〕 160J0-1234-o2

●本授業の概要：

世の中には大量の情報が溢れており、個人がニュース等で取り上げられている問題の是非を判断することは困難です。本授業では食料問題を材料に、政府の公開文書や統計を自分で分析して、独自の意見を表明できるツールを獲得します。

コースの前半ではデータベースの作り方や統計量の計算に関して、教員が講義した後、各学生は問題を解くことにより、ツールを身につけます。

コースの後半では、少人数のグループを作ったうえで、各グループの中でディスカッションし、取り上げる食料問題を決定し、レポートを作成する作業を行います。担当教員は議論の材料となる、文献・統計の収集と分析ノウハウを指導する補助的役割にとどまり、あくまでも、学生が主体となるグループワークが中心となります。

●到達目標：

1. 政府の公開文書・公式統計をインターネット上から入手し、統計に関しては、表計算ソフトでデータベースを構築できる。
2. 1で構築したデータベースを利用して、記述統計量を計算し、結果の解釈ができる。
3. 食料問題に関するマスメディアの報道に対し、自分の意見を述べることができる。
4. ソーシャル・スキルを身につけ、他のメンバーとディスカッションしながら、レポートの発表という共通の目的を達成することができる。

●成績評価の基準：

- ・データのダウンロードや統計の計算など、授業で提示した課題の理解度 40%（到達目標1,2）
- ・授業で使用するニュースに対する自分の意見の表明 20%（到達目標 3）
- ・グループ発表におけるディスカッションへの参加度 20%（到達目標 4）
- ・最終発表とレポートの完成度 20%（到達目標 4）

●留意事項：

- ・授業に欠席する（した）場合は、必ず、電子メールで連絡してください。メール・アドレスとオフィスアワーは授業中にお知らせします。

●実務経験の授業への活用方法：

農林水産省傘下の国立研究機関である農林水産政策研究所で37年間、食料に関するデータを分析して政策策定の資料を作成してきた経験を活かし、学生の皆さんが政府統計を活用して様々な分析できるように、授業で手法を指導します。

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション
 - 2 食料に関する基本統計の探し方
 - 3 データ処理と分析の方法（1）（平均、分散、指数）
 - 4 データ処理と分析の方法（2）（ローレンツ曲線、ジニ係数、寄与度）
 - 5 世界の食料需給データの解説
 - 6 日本と岡山県の主要食料データの解説
 - 7 教員により指定されたデータのダウンロードと加工の実践
 - 8 各チーム毎に取り上げる課題の検討
 - 9 各チームがレポート構想を発表
 - 10 レポート資料の作成（発表資料の検討）
 - 11 中間発表（1）
 - 12 中間発表（1）におけるディスカッションを受けて、構想の見直し
 - 13 中間発表（2）
 - 14 中間発表（2）を見直し、最終とりまとめへの準備
 - 15 成果の発表と議論（パワーポイント使用）
- 別途、最終報告を文章化した報告書を提出（ワード使用）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・エクセル、ワード、パワーポイントの基本的な操作を履修前に身につけておいてください。
- ・記述統計では微分・積分などの高度な数学は使用しませんが、高校1年度程度の初歩的な数学は使用します。自信のない人は履修前に復習をしておいてください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

必要な資料は授業の時に配布するか、manaba の掲示板にアップロードします。

自立力育成ゼミ VI

〔担 当 者〕 村中 李衣・Bae Junsub
〔開 講 期〕 通年
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2
〔科目ナンバリング〕 160J0-2340-o2

●本授業の概要：

近くて遠い国と言われる韓国の「近さ」と「遠さ」を「わたし」という窓を通して理解していく。ソウルでの異文化交流を念頭に、毎回簡単な読む・聴く・話すトレーニングを取り入れながら、自分なりの問題意識を高めていく。現地実習終了後は、自分の目と肌で感じた韓国を伝え合い、今後あるべき日韓の関係づくりの提案を行う。

●到達目標：

- 1、マスメディアやインターネットによって流される情報を単純に受け入れるのではなく、事実に基づいて正しく判断できる。
- 2、自分独自の視点をもって日本以外の国の人々との関係づくりの手掛かりを持つ。
- 3、現地での交流の手掛かりとなる簡単な韓国語会話ができるようになる

●成績評価の基準：

講義及び実習への参加は必須。
ディスカッションへの参加度：40%
実習（体験学習）後のレポート：60%

●留意事項：

前期中に講義とガイダンスを行う。ソウルでの現地実習は受講生との話し合いで夏休み期間のいずれか、2泊3日で行う。具体的な訪問場所は、受講生の意見を反映し、調整可能。オフィスアワーは授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

BaeJunsb は、内閣府主催の国家間青年親善交流事業における同行通訳及び招聘通訳の経験を活かし学生の初歩韓国語会話能力の習得（到達目標 3）の達成を援助する。また、日韓連絡会議の実行委員および神戸市嘱託職員として日韓文化交流事業に携わっている経験を活かし、学生がそれぞれの課題を設定し現地で韓国学生との交流を進める（到達目標 1、2）手がかりを提供できる。

●授業予定一覧：

- 1 ハングル文字の読み方・書き方 1 ・韓国概要
 - 2 ハングル文字の読み方・書き方 2 ・日韓関係の歴史
 - 3 簡単な挨拶・映画や小説から見てくる韓国の姿
 - 4 簡単な韓国語会話 1 ・韓国論の通説・俗説
 - 5 簡単な韓国語会話 2 ・韓国の中の日本文化、日本の中の韓国文化
 - 6 簡単な韓国語会話 3 ・様々なレベルにおける日韓関係
 - 7 実習の事前指導1：各自の実習課題設定
 - 8 実習の事前指導 2：課題についてのグループ討議
- <実習（夏休み期間中）ソウルでの現地見学と現地での若者交流>
- 1日 韓国国立中央博物館見学及び韓国青年との交流
 - 2日 市民団体（参与連帯）見学及び韓国青年との交流
 - 3日 放送局見学、実習課題達成のためのチャレンジ
- 9 共同討議
 - 10 学びの振り返り：わたしの中の「世界」はどう変わったか？

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業中に配布した練習プリントおよび課題を次回授業までにすませておく。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>
適宜、授業中に指示する。
<参考書等>
必要に応じて、印刷物を配布する。

自立力育成ゼミⅧ

〔担 当 者〕橋本 晶子
 〔開 講 期〕2 期
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2
 〔科目ナンバリング〕160J0-1234-o2

●本授業の概要：

＜広島を歩く一真の平和と和解を目指して＞

「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命を奪います。戦争は死そのものです。過去を振り返ることは、将来に対する責任をになうことです。」

(1981年教皇ヨハネ・パウロ2世平和アペール)

教皇ヨハネ・パウロ2世来日から38年ぶりとなる2019年、再び教皇の来日が決定し、平和促進への気運が高まっている。昨今、政治、経済の面で近隣諸国との関係性が密接になる中、共に平和な世界を目指すためには、過去の歴史に向き合い、真に和解に向けた関係構築が重要となる。

本授業では、キリスト教精神に基づく本学が、カトリック広島教区内に存在していることに着目し、「広島」「広島」「ヒロシマ」への理解を深め、キリスト教的視点で過去、現在を見つめ、具体的に平和と和解の関係性に寄与することを目的とする。またゼミ形式の特性を生かし、講義と対話を重ねながら実際に広島を歩き（巡礼）身体を通しての気づきを深め、「被害者」であり「加害者」であるところの課題を統合し考察していく。

●到達目標：

1. 軍都広島と平和都市ヒロシマについて考察し、説明することができる。
2. キリスト教的価値観に基づく平和を考察し、言葉化することができる。
3. 資料を通して学び、積極的にディスカッションに参加することができる。
4. 課題を持ち現地実習に取り組むことができる。

●成績評価の基準：

リアクションペーパー	40%（到達目標1.2,3）
ディスカッション・現地での発表	20%（到達目標3,4）
課題レポート	40%（到達目標1,2,4）

●留意事項：

初回の説明会は9月25日（水）昼休みにキリスト教文化研究所にて行う。

受講定員は15名まで。

現地実習費用として、15,000円程度（交通費、宿泊費、食費、見学科）が必要となる。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

講義

1. ガイダンスー聖書が伝える正義と平和
2. 広島の世界史概要
3. 軍都広島発展と特徴①
4. 軍都広島発展と特徴②
5. 原爆投下と被害の記憶
6. 日本の侵略と加害の記憶
7. 地図から消された毒ガスの島
8. 実習の事前指導

実習「広島を歩く」（11/20～21日の休校日）

- 9-11. 第1日 軍都広島を歩く（大本営跡・比治山周辺・宇品周辺）
- 12-14. 第2日 被爆地ヒロシマを歩く（原爆関連・碑巡り・世界平和記念聖堂）

講義

15. 和解とゆるし（ゲストティチャーによる講義）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実地見学では碑巡りを予定している。それぞれの碑の説明は受講者に割り当てとなるので事前に準備学習をすすめておく。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞

授業で資料を配布する。

＜参考書等＞

授業内で随時文献表を配布する。

自立力育成ゼミⅧ

〔担 当 者〕木山 博雅
 〔開 講 期〕2 期
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2
 〔科目ナンバリング〕160J0-1234-o2

●本授業の概要：

虚実とりまぜた膨大な情報がネット空間にあふれる現代を自立して生きるには、情報を正しく読み解き、自ら考え、自分の言葉で表現することが欠かせない。本授業では、日々刻々変化する現代社会の問題をさまざまな角度から報道し、論じ、提言する新聞記事やコラム、論説などを取りあげる。それらを読み込み、実際に書いてみることで相手に分かりやすく伝える文章の力を磨くとともに、作品発表やディスカッションを交えながら、自ら考え表現するための知識と技術の習得を目指す。

●到達目標：

- ・自己表現、コミュニケーションの重要な手段である文章表現の方法を身につける。
- ・論理的で簡潔な文章の構成、表現技法を理解し、レポートや論文を書く力を養う。
- ・膨大な情報が氾濫する多メディア時代にあって、自立した個人として情報を取捨選択し、有効に活用することのできるメディアリテラシーを身につける。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度	30%
授業中の課題	30%
期末レポート	40%

●留意事項：

授業の中で課題を出し、発表、批評、ディスカッションするので、受講者は主体的に授業に臨むこと。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 イントロダクション
 - 2 新聞の構造とコンテンツ・メディアリテラシー
 - 3 新聞の文章から考える
 - 4 記事を書いてみる
 - 5 発表とディスカッション
 - 6 コラムを読んでみる
 - 7 コラムの構造について考える
 - 8 コラムを書いてみる
 - 9-10 発表と批評、ディスカッション
 - 11 社説を読んでみる
 - 12 社説を書いてみる
 - 13 発表と批評・ディスカッション
 - 14 多様な文章表現に触れる
 - 15 まとめ
- レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

適宜授業中に指示する

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞

プリント等を授業中に配布

眠りを考える

〔担 当 者〕石原 金由

〔開 講 期〕2 期

〔授 業 形 態〕演習・講義 〔単位〕2

〔科目ナンバリング〕160H0-1234-o2

●本授業の概要：

誰もが毎身体験している「睡眠」について理解を深めるとともに、自ら疑問や問題点を見つけ出し、(1) それについて文献を探し、調べ、発表したり、グループで討論してもらう。さらに(2) 自らが被験者となって、簡単な実験を実施し（授業時間外に実施）、レポートを書いてもらう。また、1・2年生には少し早い段階で、学術論文に触れてもらい、レポート・論文とはどのようなものかを知ってもらう予定である。

●到達目標：

本授業の目的は、「睡眠」という誰もが体験しているテーマを通して、

1. 疑問や問題点を見つけ出すトレーニングができる。
2. その疑問を自ら調べ、必要な文献を探すことができる。
3. 発表やレポートの書き方のトレーニングができる。
4. 科学的、論理的な考え方を身に付けることができる。

●成績評価の基準：

授業への取組態度：10%

提出課題：30%（3回）

発表課題：20%（1回）

レポート：40%

●留意事項：

1. 初回の授業では、授業計画・注意事項等を説明するので、履修を迷う場合には必ず出席して下さい。2回目の授業からの出席は認めないことがあります。
2. 身近なテーマなので、授業には積極的・意欲的に参加してほしい。1回の授業で1回は発言するつもりで。
3. とくに指定はしないが、自分で文献を検索して、睡眠または概日リズムに関する本を1冊読み、批評してもらう。
4. 課題提出、資料配付、受講生との連絡にはmanabaを利用します。リマインダ登録を忘れないように。
5. オフィスアワー：火曜と金曜の9/10限

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション
- 2 睡眠とリズムを知ろう (1)：眠りとは ※質問等は随時可
- 3 睡眠とリズムを知ろう (2)：眠りの深さと夢 ※質問等は随時可
- 4 睡眠とリズムを知ろう (3)：リズムとは ※質問等は随時可
- 5 睡眠とリズムを知ろう (4)：眠りと健康 ※質問等は随時可
- 6 眠りに関する疑問について考えよう 1
- 7 課題実験の説明 (1)
- 8 眠りに関する疑問について考えよう 2
- 9 学術論文を読もう (1) ※質問等は随時可
- 10 学術論文を読もう (2) ※質問等は随時可
- 11 学術論文を読もう (3) ※質問等は随時可
- 12 課題実験の説明 (2)
- 13 レポートの書き方
- 14 考えよう・調べよう（グループ発表）
- 15 考えよう・調べよう（グループ発表）
- 16 課題実験レポート提出

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

「眠りに関する疑問について考えよう」「学術論文を読もう」「考えよう・調べよう」では予め予習や下調べをしておいてください。とくに「考えよう・調べよう」ではグループ活動になるので、資料検索やメンバー間の打ち合わせは必須です。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞

各自が選択した本を1冊読んでもらいます。

＜参考書＞

◎自分で文献を検索することも学習の一つです。

堀忠雄, 眠りと夢のメカニズム, サイエンス・アイ新書

神山潤, ねむり学入門, 新曜社